



校長室だより No. 6

平成29年10月25日
山直南小学校長 山下吉信

今年の運動会が終わりました。

秋の長雨の影響で予定していた日に開催することができず保護者や地域の皆さまにはご迷惑をおかけしました。いろいろなご予定があったとは存じますが、運動会当日には多くの方々にご来校いただきました。ありがとうございました。

運動会は体育学習の場です。

体育（からだを動かすこと）の得意な子どももそうでない子どももいる中で、取り組む運動会の演技。一番練習時間を要したのはどの学年も「表現運動」。この表現運動にはいろいろな動きが取り入れられています。学年に応じた動きだけでなく、その学年にとって少し背伸びした動きを取り入れる（指導する）ことで運動能力の向上をめざしています。

さて、ご覧いただいた表現運動は、多くの子どもがひとつのテーマにそって構成された動きを行うことで全体の美を表現しています。一人ひとりの子どもの動きをご覧いただくのも、集団をご覧いただくのもともに味があります。

表現運動を見ていて、「色鉛筆」を思い浮かべました。

色鉛筆はたくさん色がありますが、全部色が違います。その違う色がケースに納まるとそこには不思議な美しさがあります。子どもが色鉛筆ケースをあけ、しばらく眺めている姿をよく見ます。そこにある美しさに見とれているのだと思います。そんな経験はありませんか。

「違いを豊かさに」という言葉があるように、違う色が集まることで見える美しさがあります。

表現運動も、自分はできないとか、苦手だなど思いながら演技している子どもたちがいまいます。しかし、決してあきらめてはいないのです。人間は決して完璧ではないし、未熟なものです。「これで十分」と感じてはいないのです。だから、得意でない動きを何とか克服しようと努力します。その取り組みが学習だと思えます。同じ動きをしても子どもの体格や性格によって微妙な違いが生じます。ところが、その違いは全体の美を構成しているのです。

「違いを豊かさに」素晴らしい言葉だと思います。

運動会で身につけた個々子どもの能力をいかに発揮できるよう指導に努めていきたいと思えます。